

# 平成21年 新年のあいさつ



舞鶴市長  
齋藤 彰

あけましておめでとうございます。

平成21年の輝かしい新春を市民の皆様とともに迎えることができましたことを、心から嬉しく存じております。

さて、昨年を振り返ってみますと、世界に冠たる学術文化賞「ノーベル賞」の受賞者12人のうち、4人が日本人という画期的な出来事がありました。

本市におきましても、「赤れんが倉庫群」が国の重要文化財に指定され、「大杉の清水」と「真名井の清水」が「平成の名水百選」に選定されました。また、本市出身の齋藤里香さんが、北京オリンピック重量挙げ女子69キログラム級8位入賞と日本記録更新という快挙を成し遂げ、本市所在の造船所では、最新技術の粋を集めた新しい南極観測船「しらせ」が進水いたしました。

いずれの出来事も、舞鶴の誇りであり誉れです。市民の皆様とともに改めて喜び合いたいと思います。

一方で悲しい出来事もありました。私たちの心を痛める凶悪事件が発生し、地域社会に大きな衝撃と不安を与えました。また、世界的な金融危機による不況や雇用不安、食の安全を揺るがす事件の発生、地域医療の危機など、私たちの生活や地域を取り巻く状況が厳しさを増してきた一年でもありました。

このような中で、私は市民の皆様が安全で安心して暮らせる地域社会の実現こそが、行政の基本的使命であるとの信念で、全力で各種施策を推進してまいりました。

特に、市政の最重要課題であります地域医療の確保につきましては、関係方面に特段のご高配をいただき、市民病院に新しい院長を迎えることができま

した。今後、病院事業の健全化とともに、公的4病院の再編に向けて新たな一步を踏み出してまいりたいと存じておりますので、市民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

私は、昨年、市内の2つの小学校で「市長の授業」を行いました。その際、多くの子どもの輝く瞳を目の当たりにし、この子たちに舞鶴の将来を託せば大丈夫だと確信したところであります。そして同時に、今に生きる私たち大人の責任で、その子供たちをしっかりと育て、是非ともこの素晴らしい舞鶴をしっかりと引き継いでいかなければならないと改めて強く感じたところであります。

今、人口減少や少子高齢化が進む中、行政に求められるのは「舞鶴市の身の丈に合った行財政のあり方はどのようなものなのか」、「市民の皆様が真に必要なとされるものは一体何なのか」をもう一度見つめ直し、あるべき方向に向けて大胆に改革していくことであると考えております。

私は、現在の私たちの選択と決断が、後世において間違っていないかと評価していただけるよう、前例や経過にとらわれることなく、一步一步着実に行財政改革を実行しながら、舞鶴の未来を確かなものにするための舵取りをさせていただく決意であります。

日本海側の拠点都市、近畿北部の中核都市として、さらに躍進する舞鶴の実現を目指し、全力を傾注してまいり所存でありますので、市民の皆様の一層のお力添えを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

年頭にあたりまして、市民の皆様のご多幸とご健勝を心からお祈り申しあげまして、新年のご挨拶といたします。